

## 夢黄金農園の展開の夢アイデア

23年の夢アイデア交流会で優秀賞をいただいた夢黄金農園プロジェクトは、25年春、実現のための農業生産法人「糸島夢農園」を設立しました。ここでは、「あの“夢アイデア”は今そして未来！」という、その後の夢アイデア展開について報告したいと思います。

さて、ある行政区の耕作放棄地の地主に当たったところ、貸与していただける土地が、まずは地権者十数名、1町歩ほどでできましたので、これから再生のために汗を流していただける方々を募集するため、11月10日に、意見交換会を開催し、会員の要件、入会金や年間土地利用料などを決めて応募を待つ段取りです。

骨子は、夢農園が受け皿となる会員制を敷きます。夢農園の会員となることによって、非農家の方でも営農ができる仕組みです。

糸島市内にも耕作放棄地は、500ヘクタールもあるわけですが、まずはモデル農園を創ることが第一の目標となります。

### 会員の負担)

耕作放棄地を元通り作物ができるようにするには、竹林になったり低木が生えたりする状態を、今一度開墾する必要があります。本来ならば、そこから労働奉仕をやっていただけるのが理想ですが、それが無理ならば、夢農園の方でやります。ただし、10アール当たり45~50万円はかかるところからそれだけは入会金としていただかせてください。4名で10アールを耕すとしみますと、一人10万円ちょっとの負担になります。ただし、自分たちで開墾からはじめる、といわれる方々には、それ相当の荒れ地の場合には、開拓精神で、入会金は免除、ということもあり得ます。

毎年の土地利用料として、10アール当たり2万5千円を徴収させていただき、それを夢農園の事務局経費に充てさせていただきます。

### 作物の活用)

出来た作物の使い道は、その地の耕作者の自由ですが、会員同士で交換しあうこと、余った作物は、夢農園の名前で販売するなどをお願いします。以上を、夢農園が回転する基礎的な仕組みと考えています。

### 会則)

会員が守ってほしいことを定めた会員憲章を創る予定ですが、会員は夢農園の規約に沿い、入会金等を納めるほか、地権者を含む地元の方と、そして会員同士が仲良くやること、糸島ブランドに恥じない、環境配慮の作物を創ること、などを考えています。(福岡県が定めたE C O制度に合格すること)

どのような方々に会員になっていただくか。こちらが決めることではありませんが、ただ、働きかける対象として想定している方々を述べますと、

個人、法人があります。個人については、糸島市内だけでなく、福岡市その他にお住ま

いの、たとえばマンション住まいで、太陽のもと、健康な汗をかいてみたい方々。定年退職者、子育て中の親子、将来新規就農を志す方々、といったところを念頭に置いています。

広報力によりますが、糸島市を楽しむために、1週間以上滞在するような若者を対象に、ワーキングホリデー制度を提供してみたいと思います（後述）。

法人むけには、当面、福岡市の商工会議所等に働きかけ、企業のCSR（社会的責任）や、社員の福利厚生の一環として耕作放棄地の再生をテーマに挙げていただく、とかを考えています。

また、学校への働き掛けも行ってみたいと考えています。一つの小学校で10アールを借り、高学年の生徒がサツマイモを植え付けたり低学年も一緒にイモ掘りをやるなど、そこでは、実学として学ぶことが多いだろうし、父兄も無関心ではいられず、何らかの関与が期待されます。

また開墾ツアーを企画したらどうか、とも考えています。荒れ地を整備する土木作業的な力仕事を行ってみたい、そこにある種の充実感を求めて参加する若人は少なくないでしょう。このグループに限り入会金は免除です。なぜなら入会金相当の作業をされたからです。開墾がすんだら、その勢いで、次は作物の栽培に精を出していただきます。

#### オリーブ栽培)

新現役の会で取り組んでおられるオリーブ普及にも関与してみたいと思っています。一反当たり50本、成長した樹木になれば、75万円/反もの収入があり得ますが、ただ、そこまで成長させるまでに、初期投資にも、その後の手入れにもお金がかかります。問題は、借地契約が10年とかの有限であることです。せっかく育てたのに、パーになります。ですから、現在では単年の野菜作物しか対象にならないところを、工夫する必要があります。

考えられるのは、再生の見込めない農地を雑種地に法的に認定し、非農家でも雑種地を取得して地主になる道を拓くことです。それにより、オリーブを植える方々に永久に地権者となっていただけるようにする、このような制度を創らねばならないと思います。

#### 取り組みたい私案)

1. ワーキングホリデーとポイント制の組み合わせでの域内経済の活性化です。

ワーキングホリデーの実施例として、宮崎県の西米良村があります。一定期間滞在する旅行者に、日中のある時間、ユズの皮むきをしていただきます。その報酬として、宿泊や村内での楽しみを満喫してもらえる仕組みです。滞在者には、旅費を負担して西米良村にまで来ていただければ、村内での生活が、少しの勤労で可能となります。

これを糸島で適用してみます。

市、あるいは信用ある団体がポイントカードを発行します。ここでは夢農園が発行することとします。夢農園の仕事をいただいた人に、日當代わりに、ポイントカードに、日当相当のポイントを与えます。発行者は、市内にある旅館、コンビニ、その他でそのポ

イントを使えるように、予め商店や旅館と契約しておかねばなりません。物品やサービスを販売した店は、ポイント相当額を発行者の夢農園に請求します。（夢農園は、それを支払うための資金が準備できていることが必要です）

すると、何が起こるのでしょうか。ポイントカードは市内でしか使えませんので、勢い、市内の産物が回転し始めるのです。いわば地産地消の自立経済が可能となるのです。これが市の商店街、そこに農産品等を納める農家、漁業の方々を潤します。そうして活性化の好循環が期待されるのです。

夢農園は、全国からやってきてワーキングホリデー制度を活用する人びとに、働くメニューを準備する必要があります。たとえば、開墾、灌水作業、草むしり、などなどたくさんあるでしょう。1週間で35,000円のポイントでいかがでしょうか。市内の産出物であれば、少し安く、ガソリン等、外部からの移入品は若干高め、という操作の代わりに、市内生産者には、ポイントでの納税をお願いします。帰還したポイントは再度市中に出回ります。また、ポイントを、月に数%減価する仕組みにすると、減価する前に早めに使いたがりますので、早いスピードで回転します。ため込むことをしないわけです。ですから益々好循環が期待されます。

その応用例を考えてみましょう。

市が、当該ポイント制度を設け、ポイントを受け入れる商店等を加盟会員制としてみます。ワーキングホリデーで、糸島市に来た旅行者は、加盟会員が提示するメニューの仕事を行います。たとえば、道路清掃とかの市の業務や、夢農園の仕事、ホテルの庭掃除、皿洗い、店番、人材派遣業の代行運転、介護、家庭教師、留守番とか……加入会員の様々な業務を行いますので、市内で発生するかなりの範囲の仕事のカバーします。相当の量のポイントが発行され、早めに使うために好循環が生まれることが期待されます。

2. もう一つ、オリーブは、6年以上経過しないと収穫は見込めないということですが、ふる里を離れて首都等に行った方々が、第一線を卒業してI・Uターンした場合の、帰郷後の職場づくりとして親御さんらが先行投資してほしいことです。オリーブは、我が国全体で4,300トンの油を輸入しているとのことですが、仮に九州で百万本植えたところで、その一割しか担えないほど需要はあるのです。ただ、その際は、農地の非農家への継承が可能なように制度改革が必要となると思います。

夢農園は、なんでもやれるメニューを定款に定めています。郷土料理の開発、販売、道の駅等の経営、体験農園、肥料の製造販売、などですが、グループ全体として、多様な可能性に挑戦していきたいものです。